

受付番号 2022-9

許可番号 大歯医倫 第 111219-0 号

研究課題名 顎顔面形態と下顎結合部との関連について

研究責任者 松本 尚之 申請者 文元 智映

研究終了日 2024 年 3 月 31 日

所 属 歯科矯正学講座 所 属 歯科矯正学講座

職 名 主任教授 職 名 病院医員

申請の概要

矯正歯科治療を行う場合、頤部の形態や位置は、抜歯・非抜歯の診断、抜歯部位の選択、下顎前歯の移動量、移動方法、治療目標の設定などの問題に大きく関わる。頤部を形成する下顎結合（mandibular symphysis）は、側面頭部エックス線規格写真上での、下顎結合部の正中断面像であり、下顎前歯の歯軸傾斜、上下顎骨の位置関係、側貌の軟組織形態などに大きな影響を及ぼすとされる。これまで下顎結合部に関しては、骨格性下顎前突症の下顎結合部の形態について多くの研究がなされてきた。しかしながら、骨格性不正咬合の比較対象となる、骨格性 1 級、2 級の顎顔面骨格について歯科矯正学的評価測項目と下顎結合部の形態との相関性についての報告は少ないのが現状である。

本研究においては、側面頭部エックス線規格写真を用いて、各々の顎顔面形態と下顎結合部の形態との相関性について検討を行うことを目的とする。

研究に用いる資料として、不正咬合を主訴として当科を受診した患者のうち、下顎結合部の形態に注目し、横断的研究として、治療のために撮影した側面頭部エックス線規格写真を用いて各顎顔面形態にグループ分けをし、各々のグループについて、下顎結合部の形成状態について評価を行う。

本研究により、顎顔面形態と下顎結合部の形態との関連が明らかになれば、患者の矯正歯科治療において、今後、より正確で、優れた診断が可能になり、より良い治療結果及び予後が期待できる。